

城山病院特集① 脳・脊髄・神経センター

群を抜く層の厚い医師団

日本人の3大死因の一つ脳卒中（脳梗塞・脳内出血・くも膜下出血）に対して、脳神経外科・脳血管内治療科、神経内科の専門医がチームを組み、関西圏で随一の最先端機器を使った高度治療を24時間体制で行っており、その実績は月刊『プレジデント』（2008年4月14日号）「わが町一番の病院・医者ガイド」にもランキング。南大阪地区の急性期医療の中核を支える医師団の中から今回は3人を紹介する。

「あなたの町の名医」300人へ選出

センター長 村尾健一 医師

（脳血管内治療科）

脳血管内治療では頭を切らずに足の付け根からカテーテルを血管に挿入し、脳頸部の細くなった血管を広げたり、未破裂脳動脈瘤にコイルを詰める治療などを行う。村尾医師は、この脳血管内治療の草分けである滝和郎教授（三重大学）の指導を受け、三重大学・京都大学脳神経外科や国立循環器病センターを経て2006年に

城山病院に赴任。手術実績は1000件を超えており、その的確な判断力と技術の高さはマスコミでも度々紹介され、最近では『プレジデント』（2008年4月14号）医師が選ぶ「あなたの町の名医300人」や「迷った時の医者選び」（2008年4月角川コミ・ユニケーションズ）に掲載された。最新鋭フラットパネル脳



脳・脊髄・神経センター-DATA

- 常勤医9名 非常勤医10名、うち専門医7名、指導医2名
- 昨年の手術実績 590件
- 治療疾患（主要なもの）

脳静脈奇形・硬膜動静脈瘻・脳動脈瘤・脳梗塞・脳出血・顔面痙攣・三叉神経痛・脳腫瘍・脊髄脊髄疾患

- 先端医療機器
- MRI(3.0テスラ、1.5テスラ)、CT(64列、2列)、PET-CT、ガンマナイフ、2方向型脳血管撮影装置

顔面痙攣、三叉神経痛治療の権威である近藤明恵医師については改めて取材を予定しています。

治療選択が可能が強み

部長 島野裕史 医師

（脳神経外科）

城山病院で研修医時代を過ごした後、各地の病院で臨床実績を積み、7年前に脳神経外科学会専門医になって再び城山病院に赴任、現在は脳神経外科医4人を束ねる。1人の患者さんに各専門医8〜10人がカンファレンスを行うことで高度の治療を行うことについて、「私たち外科医はどうしても開頭手術を優先的に考えてしまうが、患

者さんにとつては避けたいはず。脳血管治療科とチーム治療をすることで、内科的治療も選択肢にでき、患者さんを身体的にも精神的にも楽にすることができると思います。昨年の手術実績では外科的手術・内科的治療は同比率だ。また、この「大所帯」の良さは最良の治療選択が可能だけでなく、救急患者の受け入れも弾力的にできる



ことだ。「ただ、南河内内で中核の急性期医療現場の宿命か、最近ますます転院までの日数が短くならざるをえず、患者さんには申し訳なくて…。脳外科医というハードな仕事の中でも常に患者さんの立場を忘れない島野医師だ。

開頭せずにも脳深部の治療が可能

ガンマナイフ室長 安田宗一郎 医師

ガンマナイフはガンマ線を虫眼鏡の焦点のように1ヶ所に集中させて一気に高線量を照射させ、ナイフで切ったように病巣を治療することからこの名がついた。開頭せず3日間の入院で治療できるため、患者さんの身体的負担が少なくすむのが特徴だ。現在、大阪府下で4台しかないガンマナイフを城山病院では1997年から導入、安田医師は当初から

治療に携わり、多くの実績を上げています。一昨年の新病院移転に伴い最新式にバージョンアップし、昨年の治療実績292例。治療の中で最も多いのが転移性脳腫瘍で、肺がんなどから脳転移が起ころも、かつては十分な治療手段がなかったが、ガンマナイフなら脳転移の制御が多くな治療は脳動脈奇形があり、この非常に困難な病



気も脳血管内治療とガンマナイフの組み合わせで比較的 safely に治療できる。他病院からの紹介患者さんも多く治療する安田医師は、「いろいろな治療が可能で、当センターの特長であり、今後も患者さんにとって最良の選択を呈示することが私の務めです」。